

第4回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 平成28年11月14日（月） 14:00～16:00

【場 所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 基本会議委員：朝比奈一郎委員、石坂洋二委員、市村初仁委員
鈴木幹一委員、須永久委員、横島庄治委員、
志立正嗣委員、島崎アイコ委員、貫名礼恵委員、
青木健太郎委員、遠藤寛士委員、荻原確也委員
児玉大輔委員

内 容

1. 開 会

2. 会長あいさつ

- ・ 難問を承知で取り組んできた風土フォーラム基本会議も4回目となった。全国の地方自治体が、まちづくりについて挑戦し色々なレベルで成果を出しているが、軽井沢は特別の状況が多い中、大変困難を極めており更なる展開を望みたい。
- ・ 我々の目指している役割を車に例えると、軽井沢型のハイブリッドカーを製作している。従来の行政手法であるエンジンは、段々改良され燃費も上がり快適な走りをしていたところへ、新しいモーター推進の部分が加わり、エンジンとモーターの組み合わせを図る時代になったのが、軽井沢型ハイブリッドカーの開発だと思う。車の世界はどんどん進化するように、自治体に与えられた役割、住民に求められている役割もどんど

ん進化し高度化している。この中で軽井沢型のハイブリッドカーをいかに開発するかについて皆さんにお力をお貸しいただいている。4回目になり、そろそろ試作車を走り出させたい段階にきた。我々が今挑んでいる難問に対しての解決策は簡単には見つからない。

- ・ 一歩、二歩進めた議論ができる提案がありそうなので、これをたたき台に、全体論は抽象的だができるだけ具体的なテーマ、歩みの中で実現するため、年度内に実施をするよう審議をお願いします。

3. 議 事

(1) グランドデザイン子供と考えるプロジェクトチーム（仮）設置について

【A委員他の提案】

○グランドデザインキッズ部隊（仮）を作ろう！

- ・ 名称は、グランドデザインキッズ部隊（仮称）としたい。
- ・ 第1ステップは、未来図づくりワークショップを開催したい。
- ・ 中軽井沢地区から取り組むにあたり、中軽井沢に詳しい須永委員をプロジェクトに加えたい。

【意見交換】

B委員

風土自治との繋がりが大事。メインは子供たちから意見を聞くことだが、こちらからの情報提供を入れてもよい。学校の授業での枠組みを想定しているのか。

C委員

現段階では明確なビジョンが纏まっていない。基本会議の方針もあるので一緒に考えてほしい。個人的には、情報提供だけするなら、ルイザちゃんと一緒に学校へ行きグランドデザインに興味を持ってもらえるようにしてもよい。全ての子供たちを対象にするには授業が適していると思うが、枠にはまるもので出来るかも分からない。効果的な方法や自由な発想が出やすい場としてはイベント型もよいと考える。

D委員

教育委員会と話をしていた中で、現在郷土学習として小学生、中学生を対象にした冊子を作成しており、グランドデザインを盛り込んだ内容で作成を進めていると聞いている。また、L君（協力してくれている小学生）からは、昔の軽井沢の状況について、地元（工場、商店街等）の人達から話を聞きたいとの声があるので実現したい。

会長

プロジェクトチームの設置としてよいか。（承認）

チームの名称はどうするか。

E委員

当初「子どもみらいづくり隊」としたが、L君からグランドデザインを入れたいという意見があり「グランドデザインキッズ部隊」とした。

F委員

名称に部隊というのは違和感があるので配慮した方がよい。

B委員

考えるよりは作る方が子供は入りやすい。

会長

子供からのアイデアを待つウェイティングの姿勢と、子供を通じて親まで巻き込むという両方を兼ねたタイトルを検討し、預かりとしてプロジェクトチームに任せる。

委員として須永委員の加入についてはどうか。（承認）。

G委員

この基本会議内では、委員の任命やプロジェクト名称を決めることに時間を取るよりも、もっと内容について議論したい。このプロジェクトチームでは子供の意見も大事だが、親を巻き込むという事の方が大事に思える。

会長

民主的な手続きも必要なので数分の許容時間は寛容に受けとめてほしい。今は成長過程であり手続きも必要だが、成長すれば形式論は段々と外れてくる。

C委員

子供達の未来を育むという目的を柱に加えてほしい。将来、地域で活躍できる人を育てるために、今住んでいる場所について、子供達に主体的に自分が参加して考える認識を持たせ、考える経験を積んでもらいたい。また、方向性について学校の授業に組み込むのか、とにかく実施してみるのかを基本会議でも考えていきたい。やはり1人(L君)の意見だけではいけない。また3回連続開催は、授業では負荷が掛かる。

会長

教育問題は自由がある分責任もある。プロジェクトチームに運営の具体的な方法は任せるが、問題が起きたら基本会議に投げかけてよい。

(2) 町長からの提案事項について

【町長の提案】

○軽井沢町のコンパクトシティ

- ・公共交通の利便性を高めるとともに、買い物などの生活の便をさらに向上させ、高齢者等が生活しやすい環境を作る。別荘保養地は静穏な環境を保ち、できるだけ都市化をセーブする。
- ・行政の役割にも限界があるので、都市部、集落部、別荘地それぞれのメリット、デメリットを踏まえ覚悟を持って自分のライフスタイルに合った場所で生活してほしい。

【副会長の提案】

○Smart Wellness City 首長研究会 アジェンダ

- ・内閣府のバックアップにより各自治体の首長がスマートウェルネスシティについて議論する。特別に軽井沢枠として参加できる状況であるので、参加希望があれば声を掛けてもらいたい。また私は、町長の提案に大賛成。コンパクト化の概念は広いので皆で議論しなければいけない。前回、委員から提案されたスポーツ・健康も大事なのでこれも含め意見交換したい。

【意見交換】

H委員

コンパクトシティは物理的にコンパクトになるだけではなく、スマートコンパクトシティというテクノロジーを利用した設計がよい。健康、スポーツはスマートコンパクトシティの柱となるべく重要なポイント。軽井沢町の都市計画策定とコンパクトシティはリンクするのか。また基本会議委員の役割として何を求めているのか。

町長

コンパクトシティを住民に理解してもらうことが必要。委員には周知する場を作り、リードしてもらいたい。

会長

土地利用規制を具体的に図面化することはできないが、専門家を入れてプロジェクトチームで話し合うことはできる。年度内に具体的なテーマの中からプロジェクト編成を考えている。

C委員

どのような対象者に参加してもらうか等の計画を立て、基本会議委員でサポートしたい。

町長

コンパクトシティ化は現在ある2つのプロジェクトチームとも連動しているので、一緒に考えてもらいたい。

会長

具体的なタイムスケジュールは事務局にらせていただき、次回事務局から試案を提示する。

B委員

町長を中心に流れを作ることは色々な可能性があり素晴らしい。導入主旨の省エネ社会はコンパクトとは距離があるように感じるが、実はとても大事である。風土を考えるとコンパクトにする部分と残す部分の共生が必要だし、風土フォーラムの趣旨と近いものが作れる。ブレイクダウンするとコンパクトで省エネな社会の中にテクノロジーやスマートウェルネスなどの切り口があり広がる。また広域との関係を

考えると医療、交通、財政などどこまでスコープを広げていくのかも検討が必要。

F 委員

前回の委員からの提案や、今回の町長からの提案について基本会議委員内では意見の隔たりはないように感じる。しかし、基本会議がそこまで踏み込むことが求められているのか疑問を感じる。他が進めることをバックアップすることが最善ではないか。

会長

組織構想として提示しているので必要なければそれでもよい。ただし、町長の提案に対して、我々ができる協力のスタイルは、意を尽くしたうえで決定すべきである。

会長

投げかけられたからには最善の答えを出さなければいけない。意を尽くして手を引くか踏み込むかを決定するにあたり、まずは事務局側で試案を出す。

(3) 第3回会議以降に寄せられた意見等について（別表）

【意見交換】

H 委員

備考欄に町の意見が書いてある方がよい。

事務局

主観が入り意見を誘導しかねないので外したが、検討する。

I 委員

コンパクトシティをにらんで、軽井沢をどの方向に持っていくのかにより、意見をくめばよい。

B 委員（番号 2 について）

自転車は、スケートも盛んな町である軽井沢にマッチした面白い取り組みである。

会長

交通政策の総合性は、夢も厳しさもある中で、自転車は面白い政策である。

町長（番号 17 について）

会議で議論した方がよいテーマではないか。

C 委員（番号 17 について）

町で子供を育むという視点で、子供の考えや作るものをしっかりと受け止め、一緒に楽しむ場を作ることが出来たら、大人と子供の関係性が良くなる。

J 委員（番号 17 について）

人間関係を作るソフト面でのまちづくりが重要。子供プロジェクトで町の大人と触れ合うことで色々なコミュニティが出来ればよい。未来を考えるとということは、明確な答えがない。校外の活動を行うことで青少年の育成に繋がれば意味がある。

K 委員（番号 18、19 について）

まちおこしの中にネット環境を絡めることは可能性が広がる。ネット環境が良くなると、環境に負担をかけずに小規模事業がサテライト的に起こる。

G 委員（番号 1、2 について）

風土フォーラムの認知度を上げるためには、会議での決定事項を反映していくことが、住民が興味を寄せてくれる要因になる。

会長

ホームページか広報誌に掲載する考えはないのか。

事務局

グランドデザインの冊子には投げかけの言葉がある。投げかけに対しての答えが、フォーラムに寄せられた意見と取れるものもあるので、カテゴリー分けをして掲載する準備中。またフェイスブックについても水面下で動いており、ホームページ上で動かす予定。

F 委員（番号 2～6、13、19 について）

ホームページなどで事務局にお越しく下さいと謳っているが、待つよりこちらから出向いて理解してもらうことが必要。個人情報の問題

はあると思うが、これらの意見をくれた人はキーパーソンになる。

B委員（番号17について）

実際の政策と背景にある考え方は対比する部分がある。教育の在り方を議論する中で、具体的政策やプロジェクト、軽井沢が考える民主主義をどう政策に落とし込むのかなどの議論をしたらよい。

町長

行政は制度を作る過程の骨であり、肉は住民が付ける。行政も家族と一緒に住むことができるような政策を検討している。

（4）その他

G委員

会議資料を当日ではなく事前にいただければ、会議への準備をすることが出来るので検討してほしい。

4. 事務連絡

事務局の業務について

5. 閉会

(別表) 風土フォーラムに寄せられた意見等一覧

番号	内 容
1	町中は整備され綺麗になったが、街灯のポールが錆びていて違和感がある。ポールもデザインのひとつであり、町の景観を司っているものである。
2	車を気にすることなく歩ける、走れる、自転車に乗れる道を整備することが必要である。ゾーニング（領域を目的をもって区分）による環境整備を進められるとよい。
3	中軽井沢ふるさと公園、長倉神社、ハルニレテラスをつなげて、湯川沿いの広域的な遊歩道整備を進めてみてはどうか。
4	国道18号線の旧道は国道から町道にできないか。そうすると交通制限をかけることができる。（大型車両の通行を禁止するなど）
5	ロンドン等ではコンジェスチョン・チャージ（交通渋滞の解消、公共交通機関の利用促進の理由から渋滞税を払う）を導入している。軽井沢でも導入して渋滞緩和を計るのはどうか。
6	LRTは、プリンスホテルとつなげる動線のほうが、来軽者向けには良いと思う。プリンス側からもお金を取ればよい。
7	発地市庭を拠点にファミリー層が八風山の尾根筋に歩ける散策路ができると観光資源になる。八風山は人工造林ではなく、広葉樹も多い自然林で所々に岩もあり散策も楽しめると思う。
8	商店街にのぼり旗は景観的にも問題があると思うが、西側は色さえ指定できれば出してもよいと思う。軽井沢は、東側だけが軽井沢ではない。西のことも考えなければいけない。
9	無計画な間引きをせず、3～5年の時間をかけて計画的に実施するべき。何年もかけて育った立派な木を、人間の目先の利益だけで簡単に解決しようとしなないでもらいたい。
10	軽井沢駅から旧軽井沢の通りが、「いろはもみじ」もしくは「ハナノキ」で並木が作れば、世界的にも注目される。歩く人は日陰を求めて歩くので、若い苗木を植えて育てるといよりも成熟した木でもてなすとよ

	い。
11	天然のからまつは木工の制作において魅力的な木である。昔は電柱に使用されていたが、今は買い手がなくなり放置されている。それを腐らせるのであれば地域に根差すためにも活かしていきたい。
12	特定外来種（アレチウリ）駆除に関して、個人では限界があり町と協力できないかと考えている。駆除活動を行う上で、腕章、タスキ、作業看板の提供を行政から受けることができれば、オフィシャル感があり、活動の幅が広がる気がする。
13	別荘文化の誇り、避暑地の誇り、軽井沢について住民が誇りを忘れてはいけない。観光業の盛んな今の状況を見ると、これまでの文化を捨てているように感じる。例えば、転入する人に対して文化の説明をする等の取組をしてみてもどうか。
14	軽井沢は文化の匂いがする町である。芸術家（作家等）を大事にしてバックアップしていく町というのを売りにしたらどうか。
15	子供への文化に対する教育が行き届いていない。教育委員会と学校側の連携を取ってほしい。
16	大賀ホールは日々色々なイベントを実施しているので、小中学生を招待し子供達にもっと文化・芸術にふれさせる機会を作ってもらいたい。
17	風土フォーラム基本会議では、景観や木のような目に見えることを話し合うよりも、もっと目に見えないもの（親子関係など）に焦点をあて考えてほしい。
18	軽井沢で余生を過ごす時間と金が余っている優秀な人材を、ほったらかしておくのは勿体ない。登録制度などを検討して活動の場を与えたらどうか。
19	軽井沢から首都圏へ通う通勤者が増加し、インターネットを使用した在宅勤務が進むことが考えられる。その際、ネットワーク環境が強い町であることで、需要も増すと考えられる。データセンターの誘致などにより、国の中でも一番早い環境にしてみてもどうか。

20	軽井沢の除雪の仕方は凸凹で綺麗ではない。北海道旭川では地面が見えるほど除雪せず綺麗に平にし、夜中に作業している。(旭川在住経験あり。)
----	---